

▶事業承継

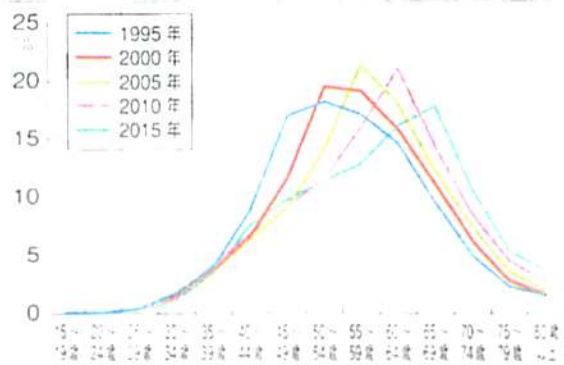
中小企業庁によると、中小企業経営者平均年齢は66歳（2015年）でした。20年前の1995年では、平均年齢47歳でした（日刊工業新聞）。これが意味するところは…！？ 中小企業経営者の世代交代が進んでいないということでしょう。あまりに停滞しています。このままでは、新陳代謝が進みません！

日本経済は400万社ともいわれる中小企業の力に依っています。

株式会社GGKでは、事業を円滑に承継して、企業の活性を継続・維持することが日本社会、日本経済に資すると考えています。

株式会社GGKでは、中小企業経営者のご子息の活動を支援し、円滑な事業継承を支援するツールを準備いたしております。

中小企業経営者の年齢分布（年代別）



※全国データベースの資料を基に作成

▶問題分析・課題整理の支援

▶課題解決方法の提案

▶課題解決ツール構築の支援

私たちは事業承継支援のために皆様と共に歩みます。

▶八塩折の酒

八塩折の酒は素戔鳴尊が八岐大蛇を退治したときに大蛇に飲ませた酒です。事業継承の様々な課題を八岐大蛇にとらえ、八塩折の酒の力により内に潜む大蛇を暴き出そうとするものです。GGKが大蛇退治のお手伝いをいたします。大蛇の尻から“勇”の象徴である「草那芸之大刀」を手に入れましょう。草那芸之大刀は御社の事業承継の大きな力となるはずです。

▶八塩折会

皆様の会社、そしてご子息の秘められた力を引き出し顕在化していくために、八塩折会に参加下さい。ご子息は同世代の次期社長の皆様との異業種交流を通じて、ご自身の本当の力に気づかれるでしょう。私たちGGKのファシリテーターが皆様と連携を密にして、ご子息の能力開発のお手伝いをさせていただきます。

▶八塩折会（子会）奇数月開催

名経営・戦略等を題材に様々な思考方法によって秘められた力を引き出します。

▶御社訪問 ご報告・ご要望拜聴・開発プログラム御打合せ等 適宜

八塩折会（親会）希望者を対象に年1回程度開催予定

▶八塩折会会場と第8回日程

会場は株式会社GGK・新橋事務所（西新橋二丁目8番1号ワカサビル4F、地図参照）です。

第8回のお題は：「創造の前には破壊が必要か？！ あなたは

必要！ それとも、必要

ない！！」



▶ シン・ゴジラ

赤坂秀樹・内閣総理大臣補佐官のせりふ

「せっかく崩壊した首都と政府だ。まともに機能する形に作り替える。次の臨時政府で、巨大不明生物関連法案の成立と東京復興の目処がたてば、解散総選挙だ。都の避難民が360万人いる瀕死の日本を立て直す、新たな内閣が必要だからな。」

赤坂秀樹・内閣総理大臣補佐官のせりふ

「スクラップ&ビルドでこの国はのし上がってきた。今度も立ち直れる」

赤坂秀樹・内閣総理大臣補佐官の言葉です。このセリフの背景には、戦争による二度の原爆投下、大地震や津波、台風など苛酷な自然災害による大きな被害から何度も立ち上がってきた日本に対する期待と希望が込められているのです？



▶ ウルトラマン

ウルトラマンは、市街戦を展開します。先ずは破壊なのでしょうか。

ウルトラマンは、天災なのでしょうか。ゴジラは？



▶ 日本における破壊は、「天災」なのか。日本は災害の多い国。対策、準備、対応などは困難なのか？

準備しないという「リスクマネジメント」。すなわち、「天災」を受け入れる・・・そして、立ち直る。

よって、先ずは「破壊」となるのか。

▶ 八岐大蛇

- ・八岐大蛇：河川？
- ・櫛名田比売（くしなだひめ）：稲作の神様
- ・須佐之男命：稲作を守り河川を治めた・・・破壊か？

古事記、石見神楽演目：大蛇（おろち）

高天原（たかあまはら）を追放された須佐之男命（スサノオノミコト）は、出雲国の肥河（島根県の斐伊川）の上流の鳥髪（現・奥出雲町鳥上）に降り立った。箸が流れてきた川を上ると、美しい娘を間に老夫婦が立っていた。その夫婦は大山津見神の子の足名椎命（あしなすち）と手名椎命（てなすち）であり、娘は櫛名田比売（くしなだひめ）といった。

〒105-0003 東京都港区西新橋二丁目8番1号
平野技術士事務所 代表 平野輝美
☎/FAX 03-3504-2600 携帯電話 090-3694-7864
<http://www.ce-hirano.com>

夫婦の娘は8人いたが、年に一度、高志から八咫遠呂智（やまたのおろち）という8つの頭と8本の尾を持った巨大な怪物がやって来て娘を食べてしまう。今年も八咫遠呂智の来る時期が近付いたため、最後に残った末娘の櫛名田比売も食べられてしまうと泣いていた。

須佐之男命は、櫛名田比売との結婚を条件に八咫遠呂智退治を請け負った。まず、須佐之男命は神通力で櫛名田比売の形を変えて、歯の多い櫛にして自分の髪に挿した。そして、足名椎命と手名椎命に、7回絞った強い酒（八塩折之酒を醸し、8つの門を作り、それぞれに酒を満たした酒桶を置くようにいった。準備をして待っていると八咫遠呂智がやって来て、8つの頭をそれぞれの酒桶に突っ込んで酒を飲み出した。八咫遠呂智が酔って寝てしまうと、須佐之男命は十束剣で切り刻んだ。このとき、尾を切ると剣の刃が欠け、尾の中から大刀が出てきた。そしてこの大刀を天照大神に献上した。これが「草薙之大刀」（くさなぎのつるぎ）である。

八咫遠呂智を退治した須佐之男命は、櫛になった櫛名田比売と暮らす場所を求めて出雲の根之堅洲国（現・島根県安来市）の須賀の地へ行き、そこで「夜久毛多都 伊豆毛夜幣賀岐 都麻碁微爾 夜幣賀岐都久流 曾能夜幣賀岐袁（八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣作る その八重垣を）」と詠んだ。

創造の前には、大蛇を退治することか？、なんらかの事業のためには、障害を排除するのであろう。主体的には「排除」であるが、「排除」される側としては、破壊されるのである。

▶ 守破離

守破離（しゅはり）は、日本での茶道、武道、芸術等における師弟関係のあり方の一つ。日本において左記の文化が発展、進化してきた創造的な過程のベースとなっている思想でもある。個人のスキル（作業遂行能力）を3段階のレベルで表している。まずは師匠に言われたこと、型を「守る」ところから修行が始まる。その後、その型を自分と照らし合わせて研究することにより、自分に合った、より良いと思われる型をつくることにより既存の型を「破る」。最終的には師匠の型、そして自分自身が造り出した型の上に立脚した個人は、自分自身と技についてよく理解しているため、型から自由になり、型から「離れ」て自在になることができる。

武道等において、新たな流派が生まれるのはこのためである。

個人のスキル（作業遂行能力）をレベルで表しているため、茶道、武道、芸術等だけでなく、スポーツ、仕事、勉強、遊び等々、世の中の全ての作業において、以下のように当てはめることができる。

- ・守：支援のもとに作業を遂行できる（半人前）。 ～ 自律的に作業を遂行できる（1人前）。
- ・破：作業を分析し改善・改良できる（1.5人前）。
- ・離：新たな知識（技術）を開発できる（創造者）。

（wikipedia）

- ・型破り
- ・型なし

▶ 破壊は創造の母か？

インドのヒンドゥー思想では、確かに、創造神、維持神、破壊神という三柱の神が立てられていますが、普通「輪廻の思想」というのは、こういう三柱の神とは、また別の思想です。「輪廻の思想」はウパニシャッド哲学で出てきたもので、三柱の神とは、また別の話です。

それはとまれ、「破壊は創造の始まり」の最初の出所は、人類誕生の薄明の彼方にあるでしょう。何故なら、これが、「文化」の発展の基本的なパターンだからです。正確には、単に破壊するだけでは何も始まらないのであり、この言葉には、西洋思想的な言葉ですが、「弁証法的展開」というものが前提にされています。

古いものを壊すとき、すべてを壊す訳ではないのです。文化における或る状態に対し、これと矛盾する状態、矛盾する事象、対立したり、不合理な事態・状況が生じる時、これは弁証法の言葉で、テーゼとアンティテーゼということになります。この矛盾状態、葛藤状態を解決し、文化を更新するには、単純に否定するのではなく、両者を受け入れつつ否定して、揚棄する、つまり、総合状態ニジンテーゼの確立が必要なのです。

「破壊は創造の始まり」とは、このような意味だと受け止めねばなりません。それは、インドの破壊の神と創造の神の同時成立の思想のなかに含意されているというなら、それは、インドのこの思想が、人類の文化の発達の基本パターンのヴァリエーションを踏まえているということなのです。

三神一体（トリムルティ）とよばれる近世の教義では、中心となる3大神、すなわち

- ・ブラフマー：宇宙、世界に実存、実在の場を与える神
- ・ヴィシュヌ：宇宙、世界の維持、平安を司る神
- ・シヴァ：宇宙、世界を創造し、その寿命が尽きた時に破壊、破滅を司る神

は一体をなすとされている。しかし現在では、ブラフマー神を信仰する人は減り、ヴィシュヌ神とシヴァ神が二大神として並び称され、多くの信者がいる。ヴィシュヌ神を信仰する派をヴィシュヌ教、またシヴァ神を信仰する派をシヴァ教と呼ぶ。



▶まず「破壊」ではないが、しかしながら「破壊」を受け入れ、消化するのが、日本であろう。さて、あなたは、自分の事業・生活・活動などにおいて、どのように対応するか。

一例です。マネジメントしないリスクマネジメント。準備しないリスクマネジメント、これが創造の前には破壊を必要とする日本的発想なのでは。

個人的には、継続性を重視して、徐々に「破壊」し、徐々に「創造」することを企図するでしょうね。

3分 Thinking !!

※ このコラムは予告なく内容が変更されることがあります。



オフィスナナアタ
OFFICE NANAHTA

《ファシリテーション - その1 》

■「ファシリテーション」てなあ〜に？

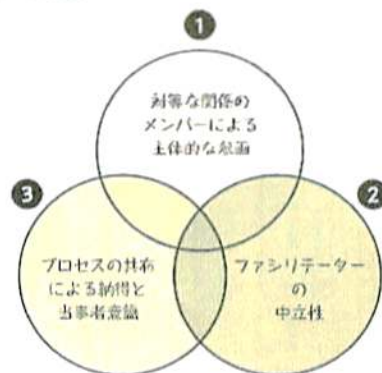
・諸接あいます

- ・ facilitate : 促進する、助長する、容易にする、円滑にする
- ・ 参加メンバーの意思を引き出し、課題を浮き彫りにして共有し、解決の方向を見出す手法。
あるいは、
- ・ 参加メンバー各自の気づきや成長の手法。
- ・ 参加メンバーみんなの納得と共有の（「総意」をつくり、腹に落す）手法。

■「ファシリテーション」3つの特徴

- ① 対等な関係、主体的な参加
- ② ファシリテーターの中立性
- ③ プロセスの共有による納得と当事者意識

- ・ コーチングと異なる
- ・ ティーチングでなくラーニング



■「ファシリテーター」とは？

- ・ 組織上の役割や上下関係にとらわれず、その時々テーマについて自由に発言し、議論を進めるために、そのミーティングをリードする人。
- ・ 中立的な立場で、ミーティング（チーム）のプロセスを管理しチームワークを引き出し、そのチームの成果が最大となるように支援する人。
- ・ プロセスの舵取り役
 - ・ 全体像が見えている
 - ・ プロセスのイメージがついている
 - ・ 想定外を大いに期待し、機動的にストーリーを変更する
 - ・ そのための「傾聴力」と「質問力」
 - ・ 現在位置の確認 ⇄ 「…皆さん、ついてきていますか！？」
 - ・ 「拡散フェーズ」「混沌フェーズ」を惜しまない ⇄ ※「ホンダリワイガヤ」
 - ・ 「入口」より「出口」の方が何らかの「レベル」が上がっていて、腹に残る
- ・ 組織上の役割を持った参加者に対し、会社、上司からの指示を示し一定の枠内（各自の役割の立場）で発言、議論させた上で結論を導き出す「司会者」と異なる。

■背景

- ・ 多用途性（ダイバシティ）を受け入れ、新たな活力を生み出し、マーケット対応力を引き出す
⇄ 多様な価値観、アイデア、情報を「経営資源」とみる（ヒエラルキー組織 → フラット組織）
- ・ 持続可能性社会（サステナビリティ）⇄ 限りある資源の有効活用
- ・ 共感によるモチベーション向上 ⇄ 「自分事化（当事者意識）」

今回はここまで！

〈参考文献〉

- 『人を動かすファシリテーション思考』 草野真（株）バブル出版 2017年5月12日初版発行
『ファシリテーション・ベーシックス』 堀公俊 日本経済新聞出版 2016年2月17日1版1刷、2018年5月25日2刷発行

〒105-0003 東京都港区西新橋二丁目8番1号
平野技術士事務所 代表 平野輝夫
TEL/FAX 03-3504-2600 携帯電話 090-3694-7334
http://www.c-hi-ran.co.jp